

横山ミチル

母性

のぬくもり

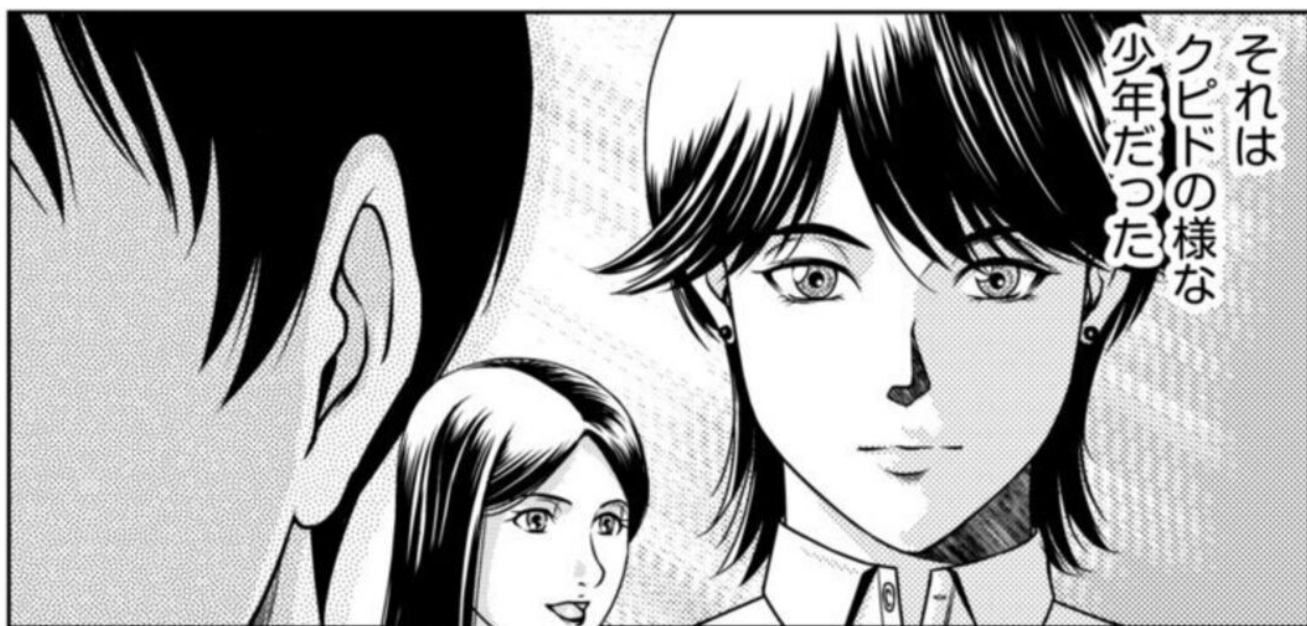
成年
コミック

1



アシオナcomic





それは
クピドの様な
少年だった



いらっしやい
散らかってて
悪いわね

ただいまー
母さん
友達連れて
きた

おじやまします
松村桂樹です

ちよつと健
友達来るなら
先にいいなさいよ

狭い家
なんだから

お母さん
健くんを叱ら
ないで下さい

僕が行きたいって
急にいいだした
んです

すいません

あら
聞こえちゃった？
恥ずかしいわ

なんて
蠱惑的な笑顔
とても子供とは思えない







エッ！
背中見せて

大丈夫です
取っ手に打った
くらいですから



青あざに
なってる

それよりこの
細かい傷はなに？



ご両親に
お詫び
しないと

いいですよ
そんなこと！
これくらい
気にしませんから



まさか虐待？！

もういい
ですか？

あうん
ごめんなさい
やっぱり青あざに
なってるわ

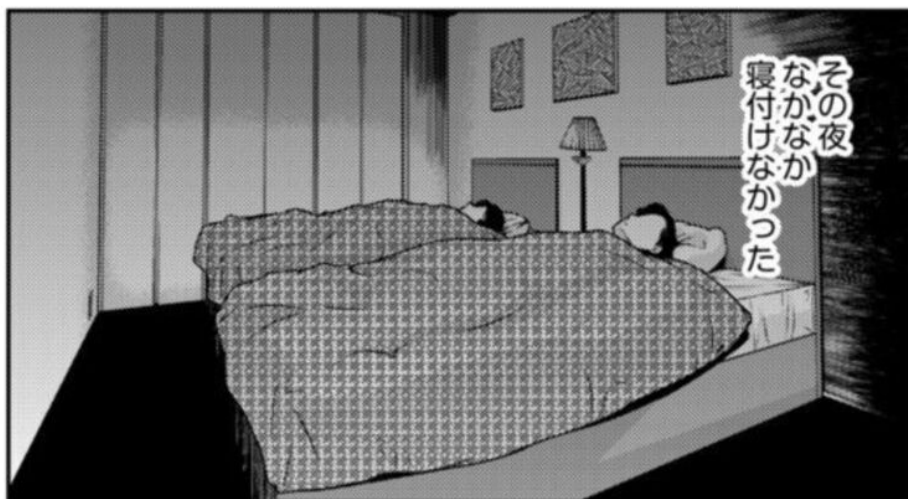


ハイ
これQRコード



そう言われても
…なら連絡先
くらい教えて
電話するわ

いいですから
本当！
そうだと僕と
ラ●ン交換
しましょ
その画面見せ
ますから

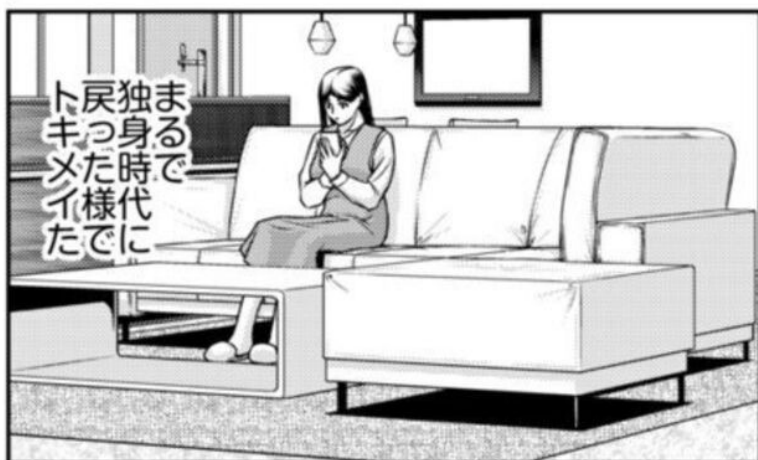


その夜
なかなか
寝付けなかった



彼に触れた
胸が

何故か
ジンジン痛んだ



まるで
独身時代
に戻った
ように
キメた

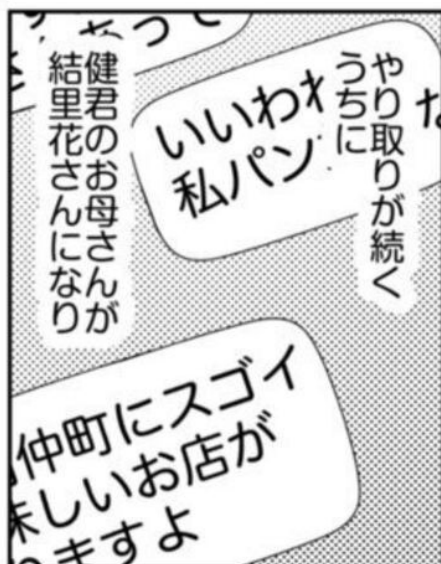


結局両親への
謝罪はうやむやに
なつたが

その時のやり取りで
分かったのは
彼のママさとは
気遣いだ



気を許しすぎて
いたのだ



健君のお母さんが
結里花さんになり

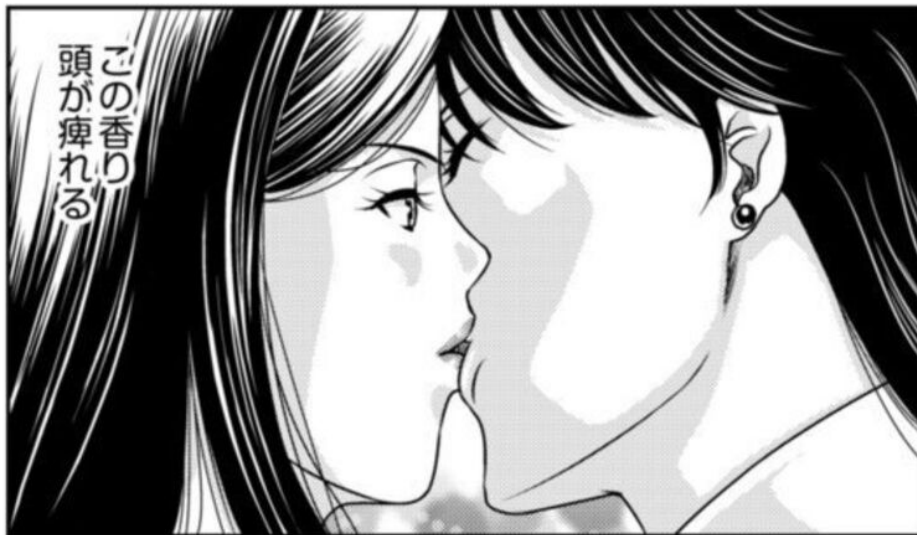
いいわね
私パン

やり取りが続く
うちに

仲町にスゴイ
美味しいお店が
ありますよ







この香り
頭が痺れる



冗談じゃ
なければ
いいんですよ

ふざけないで



って
何やってるのよ
冗談は
御止しなさい



アア

抵抗なんて
ムダだった



友達の母親に
なに考えてるの！



不規則なのに
リズムミカルな
その腰使いは
絶えず
新しい刺激を
重ねつつけ



そして彼は
驚くほど
上手だった

アアア



私をイヤでも
オーガズムに
導こうとする

…ク…ウ!

あれ?
今イっちゃった?



それほど
体験した
ことない
快感だった

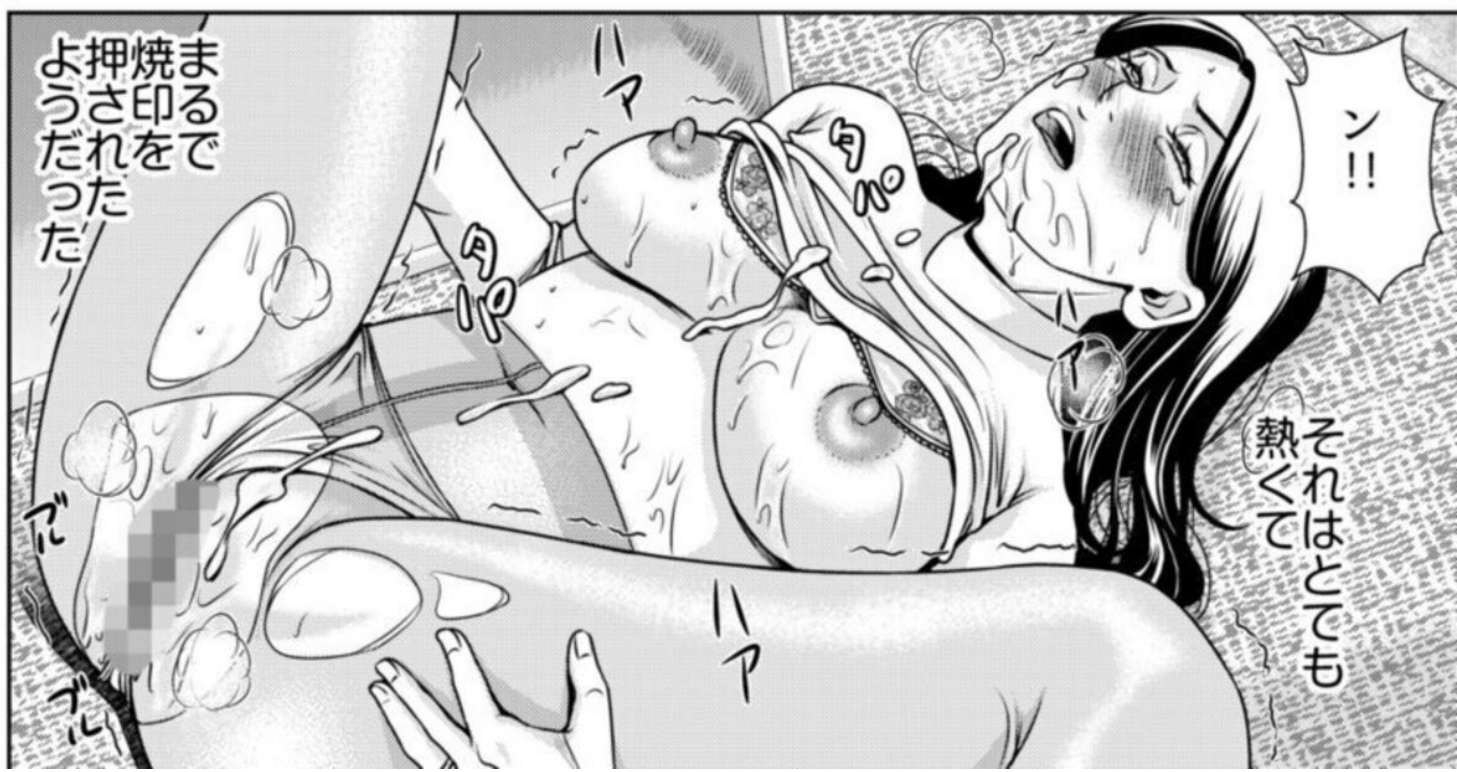
っハッ!

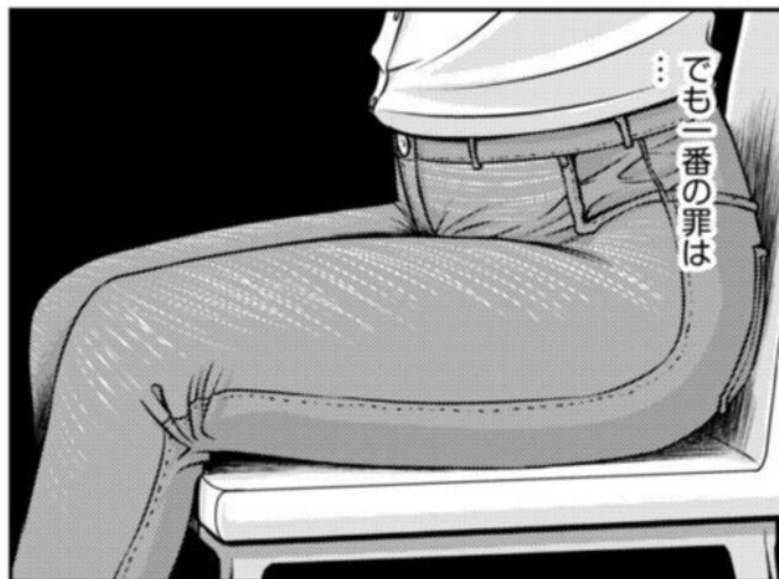
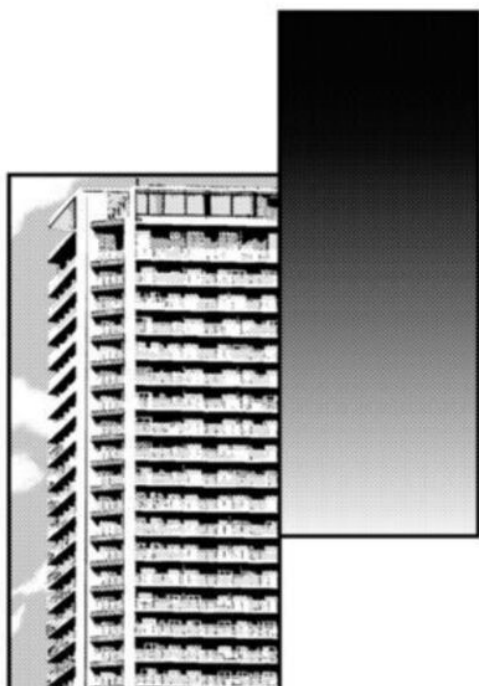


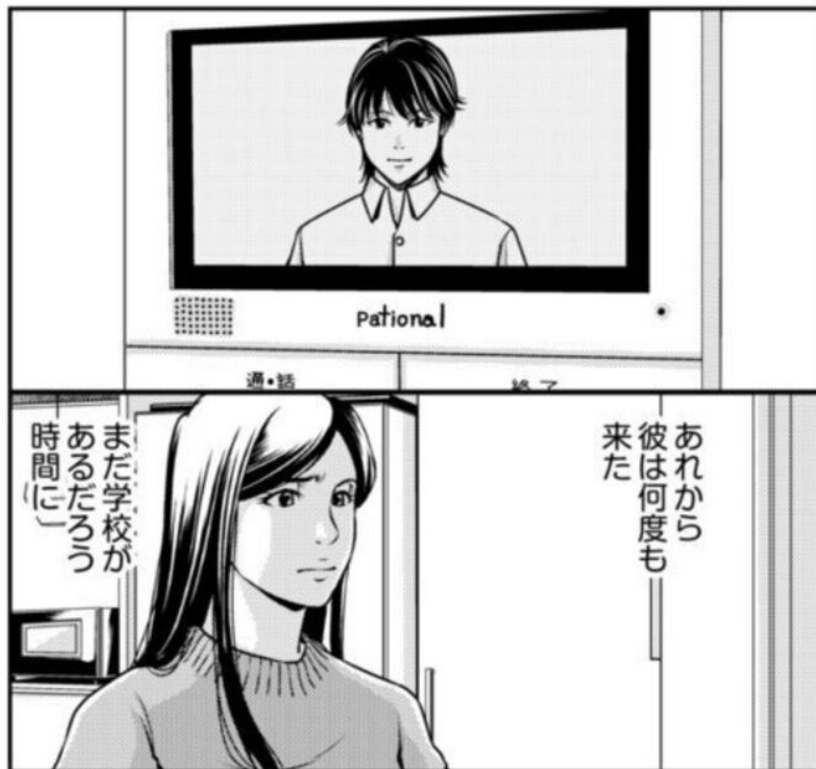
指や舌なんて
もう何されて
いるのか
分らなかつた

なんか
くる

なんか

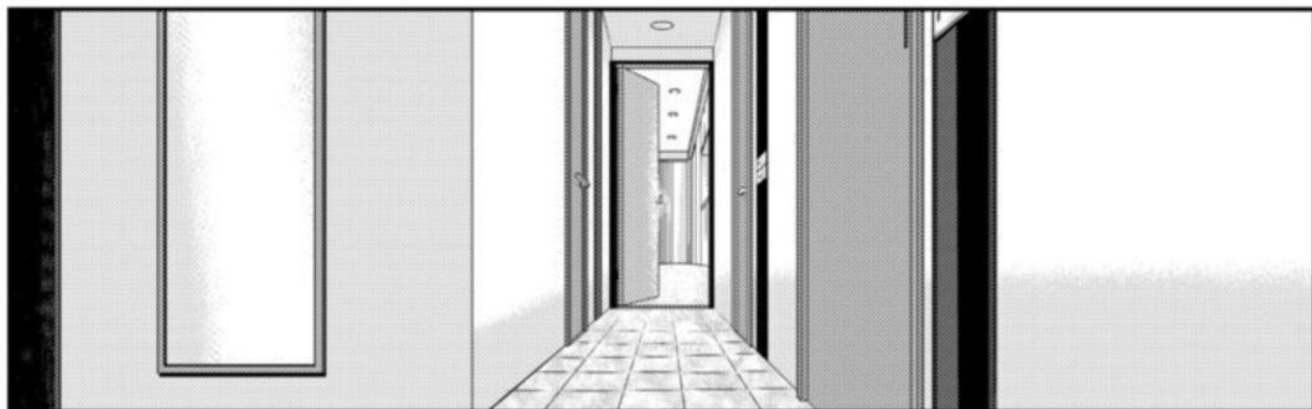












僅かな抵抗心も
消えてなくなる

でももっと
頬を窄めて
包み込む様にして
吸ってくれるのが
僕は好きです

言われたまま
従順に従って
しまっ

こうかしら
コレが好きなのね

それじゃ
夫婦の寝室に
行きましょうか

分かっていた
もう戻れないって

2回の逢瀬で

イク！
このまま膣で
出すよ

ああ！

彼に膣で
射精されたとき

嫌がらない
ってことはい
いいんだね

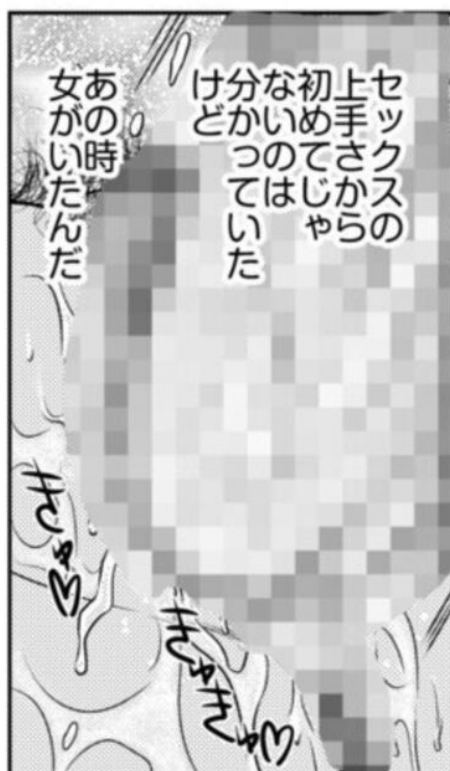
あああ！

デッる

んああああ♡







健君と3P
したいな

エッ?!

バカ言わないでよ
自分の息子と
なんて!

出来るわけ
ないじゃない!

じゃあ結里花とは
もう会わない

エエ!!

キュン♡

キュン♡

僕と健
どっちを取るの

あなたよ!
桂樹君よ!



健君より
僕を選
んだね

…そっか



タワマンに
住むような
セブな人なら
どうかと思
った
けれど…

?
何のこと?



なんでも
ないよ

アン♡

健君と
3Pするなら
…

ちゅぽ



ア●ルが
使える様
になっ
とね

ヒッ

大丈夫
いきなり
なんて
しない
から

ハッ



母性のぬくもり(1)

著者 横山ミチル

レーベル アシオナcomic

★この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。

★本書の一部あるいは全部を無断で複製、転載、上映、放送、配信、送信したり、ネットへのアップロードなどは、著作権法上での除外を除き禁止します。
